

令和 3 年 6 月 27 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04542

研究課題名(和文) <哲学の女性性> とアメリカ哲学のグローバルな再生：政治教育の実践哲学研究

研究課題名(英文) Feminine Voice in Philosophy and Global Resurgence of American Philosophy:
Research on Practical Philosophy for Political Education

研究代表者

齋藤 直子 (Saito, Naoko)

京都大学・教育学研究科・教授

研究者番号：20334253

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、グローバル経済下の人文社会科学の危機に対し、実践哲学としてアメリカ哲学のグローバルな再生の教育的意義の解明を目指す。アメリカ超越主義とプラグマティズムの超二元論と反基礎づけ主義が拓くクロスジェンダーな「哲学の女性性」が、異質性への包摂の不安を受容し、民主主義のバトスと強靱な個の思考力を覚醒する人間変容の政治教育の鍵であることを明らかにする。研究手法として、<教育をハブにした政治-哲学-美学>の学際的対話の中で研究者どうしが境界を超え足場を揺さぶり合う対話的手法を開拓する。機能と美、理性と感情、男性と女性、身体-言語-思考をつなぐ「美しい知識」の政治教育の哲学の実践的意義を提示する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義として、「哲学の女性性」というこれまでなかった切り口からアメリカ哲学のグローバルな再生を現代的文脈に照らして解明し、査読つき国際学術誌や、英語での国際共著を中心に研究成果を上げることができた。

社会的意義として、国際会議や国際学会での第一線で活躍する外国人研究者との共同パネル開催、海外での国際会議への招待講演などを通じ、アメリカ哲学のグローバルな意義を明らかにし、哲学の女性性という新領域を日本から世界に向けて発信することができた。

研究成果の概要(英文)：In response to the crisis of the humanities under the tide of the global economy, this research aims to clarify the educational implications of American philosophy as practical philosophy in its global resurgence. American philosophy opens the dimension of the feminine voice in philosophy, which crosses gender divides. This research tries to examine the implications of this feminine voice in philosophy for political education for human transformation -- a kind of education that is receptive to the anxieties of inclusion towards the strange and that awakens a sense of the pathos for democracy and of the power of thinking of the resilient individual. Adopting a dialectical method, the researchers inspire each other beyond accustomed boundaries, in interdisciplinary dialogue between political studies, philosophy and aesthetics, with education as a hub. This demonstrates the practical implications of what Thoreau calls “beautiful knowledge” for the philosophy of political education.

研究分野：アメリカ哲学、教育哲学

キーワード：クロスジェンダーな哲学の女性性 アメリカ哲学のグローバルな再生 美しい知識 政治教育 <教育をハブにした政治-哲学-美学>の学際的対話 翻訳のアート 生き方としての民主主義 アメリカ超越主義とプラグマティズム

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

世界の STEM 教育重点化政策や「役立つ知識」重視の教育政策（教育再生実行会議 2015 年 3 月）の中で、「役に立たない」人文社会科学は存立の危機に立つ（吉見 2016; デルヴィッツ 2016; 日本哲学会シンポジウム 2015）。他方、異質な者に対する包摂の不安の政治的感情（Nussbaum 2013, 2015）がもたらす暴力や排斥の悲劇は、哲学が現実生活から乖離した知的学問から、「生き方としての民主主義」のための実践的英知となることを求める（Dewey 1998; 宇野 2013; アメリカ哲学フォーラム 2016）。問題解決のハウツー的思考とイデオロギー論争を超え、人の生き方に関わる次元で、周縁の声、移民性の感情に応答し、理解を超える他者と共存するための、民主主義のパトスと批判的思考の育成は政治教育の焦眉の課題である。そのために、効率性重視の「使える知識 vs 使えない知識」の二元論、実証科学の明証性、承認の政治学や合意形成論の合理的・男性的思考様式に代わり、個が個に向き合い、不確実性や流動性を恐れずに受容して生きるための哲学の思考様式の転換が求められる。

これに応え本研究は、プラグマティズムを狭義の方法論として教育に応用する従来の解釈（魚津 2006; 伊藤 2015; 現代思想特集 2015）を超え、日常的な人間変容に関わるより高度な実践哲学として「アメリカ哲学のグローバルな再生」（Bernstein 2010; 2016）の意義を解明する。その鍵としてアメリカ超越主義とプラグマティズムの超二元論と反基礎づけ主義が拓くクロスジェンダーな「哲学の女性性」（Cavell 1994）に着目する。従来のアメリカ哲学研究はフェミニズム研究の視座からジェンダーとしての女性を扱う傾向にある（Frazer 2013）。これに対し本研究は、周縁性やあいまいさ、語りえなさを受容する翻訳としての哲学の視座から、境界を超え、際に立って他なる者と共に生きるための強靭さをもつ思考・言語様式としての「女性性」を扱う。その実践的意義として、二分法的思考と実証的明証性を超える、人間変容のための実践的・学際的教養「美しい知識」の政治教育（ソロー 1991）を高等教育に向けて提言する。

2. 研究の目的

A. 問題の所在の批判的解明：生き方としての民主主義の視座から人文社会科学の教育政策や学術研究の二元論、実証主義、明証性志向、合理的 - 男性的思考様式の限界を解明。

<政治 - 教育 - 哲学>の学際的課題として人間変容に資する実践哲学の必要性を提起。

B. 哲学的解明：アメリカ超越主義（ソロー、エマソン、カベル）とプラグマティズム（デューイ）の超二元論と反基礎づけ主義の思考を元に、フェミニズム批評やケアの倫理との差違化を図りつつ、クロスジェンダーな思考様式としての「哲学の女性性」の独自性を解明。女性がジェンダー化され政治的イデオロギー論争に取り込まれる以前の、男性と女性が共に「なりゆく状態」としての「女性性」の特質を、下記の諸点から精緻化。

i) 翻訳としての哲学と受容的 - 女性的言語（スタンディッシュ 2012）

ii) あいまいさのリアリズム（Cavell 1988）

iii) 父の言語のフェミニズム（Cavell 1984; 2012）

C. 実践的意義解明：機能と美、理性と感情、男性と女性、身体 - 言語 - 思考をつなぐ「美しい知識」に根ざす民主主義のパトスと強靭な個の思考育成のための政治教育を提言。

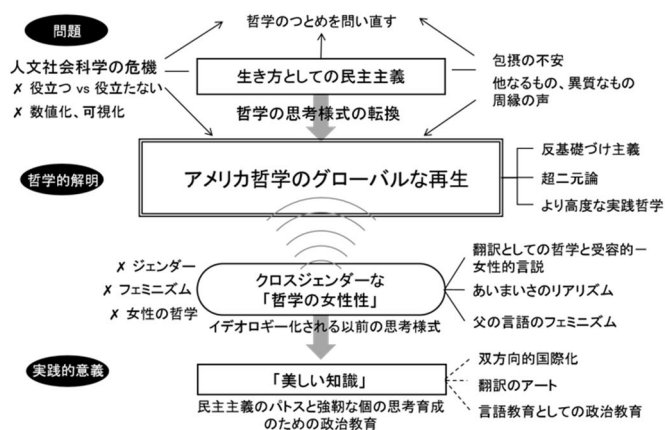


図1 <哲学の女性性>とアメリカ哲学のグローバルな再生 概念図

3. 研究の方法

本研究は、アメリカ哲学のグローバルな再生が「生き方としての民主主義」のための実践哲学として人文社会科学で果たす意義を、「哲学の女性性」という視座から解明する。日本 - アメリカ - イギリス - フランス - フィンランドの国際ネットワークの中で、世界の先端研究者との動的哲学対話を通じて研究を遂行する。世界的に著名なアメリカ哲学研究者 Richard Bernstein との研究協力と著作の翻訳を組み込む。教育をハブとし政治学、哲学、美学に関わる研究者が互いの足場と思考枠組みを揺さぶり、ジェンダー、国、言語、文化、世代の境界を越える思考を促す翻訳のアートを研究者自身が学び合う学際会議や共同研究を遂行する。成果として英語編著 *The Feminine Voice in Philosophy* (仮題) 及び英語単著 *American Philosophy in Translation* を出版し、「美しい知識」の政治教育の哲学を高等教育に向けて提言する。研究期間 は平成 29-31 年度の 3 年間とする。

4. 研究成果

「哲学の女性性」という切り口からアメリカ哲学のグローバルな再生を現代的文脈に照らして解明し、査読つき国際学術誌や、英語での国際共著を中心に研究成果を上げることができた。

国際会議や国際学会での第一線で活躍する外国人研究者との共同パネル開催、海外での国際会議への招待講演などを通じ、アメリカ哲学のグローバルな意義を明らかにし、哲学の女性性という新領域を世界に向けて発信することができた。

とりわけ、下記の学術的なオリジナリティを世界に向けて発信できた。

- i. 先端的アメリカ哲学研究：ハウツーの問題解決や有用性の学として狭義にとらえられてきたプラグマティズムを、人間変容のためのより高度な実践哲学に転ずるフロンティア研究。
- ii. 国際的視座をもつ実践哲学研究：これまで構築してきた欧米日の双方向的な国際交流の哲学対話ネットワークを発展させ、高等教育のグローバルな共通課題に取り組む実践哲学研究。
- iii. 対話的学際研究：異分野間の情報交換的な学際交流を超え、研究者自身が足場を揺さぶり合い学び合う「翻訳のアート」に根ざす教育的で対話的な人文社会科学の新研究手法を開拓。

学術出版や国際会議での発表を通じて、下記の視点について、解明がなされた。

- i. 哲学の女性性：ケアと正義の二項対立的な政治思想、ジェンダーとして本質化される女性のための女性による女性哲学とは一線を画し、イデオロギー論争に先立つ思考様式の「女性性」に着目する。生物学的身体の象徴的側面としての「女性性」を維持しつつ、女性を弱さや依存につなげる男性的発想を覆し、強靱な個につなげる戦略性。
- ii. 実践的・学際的教養「美しい知識」：教育をハブとする〈政治 - 哲学 - 美学〉の視座に立つ「美しい知識」から、人文学と科学、職業教育とリベラルアーツ教育の架橋を提言する脱境界性。
- iii. 人間変容の政治教育：「承認」の政治学)から「承諾」の人間学への思想転換を通じ、生き方としての民主主義のための人間変容の政治教育を提言する革新性。

学術出版や国際会議での発表を通じて、下記の意義が発信された。

- i. 学術的意義：危機にある人文社会科学を再生させる新たな実践哲学の研究・思考様式が解明され、国内外の会議や英語著作出版を通じ、日本から世界に向けて学術成果が発信された。
- ii. 社会的意義：情動的民主主義への代替案として、一人一人の市民が民主主義のパスと批判的思考に支えられる「声」を発するのための生きた哲学が、日本社会の政治教育にとって持つ意義が発信された。
- iii. 教育的波及効果：双方向的国際化に資する高度な外国語教育と言語教育としての政治教育を通じ、内向き思考を打破し境界を越えて思考できるグローバル人材育成への発信がなされた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 齋藤直子	4. 巻 29
2. 論文標題 哲学的に伝えるということ、『「自分を変える」ということ』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近代教育フォーラム	6. 最初と最後の頁 232-235
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoko Saito	4. 巻 N/A
2. 論文標題 Educating the Feminine Voice in Philosophy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Philosophy of Education 2018	6. 最初と最後の頁 122-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Naoko Saito	4. 巻 N/A
2. 論文標題 Excellent sheep or wild ducks? Reclaiming the humanities for beautiful knowledge	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Philosophy of Education 2017	6. 最初と最後の頁 431-445
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 荒井祐介	4. 巻 56(2)
2. 論文標題 政治学における「受容的・応答的」思考・言説様式の可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 政経研究	6. 最初と最後の頁 539-554
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yusuke Arai	4. 巻 13
2. 論文標題 Modern Democratic Theories and Political Education in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Educational Studies in Japan: International Yearbook	6. 最初と最後の頁 67-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7571/esjkyoiku.13.67	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Naoko Saito	4. 巻 15.2
2. 論文標題 Changing Politics: Thoreau, Dewey and Cavell, and Democracy as a Way of life	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Contemporary Pragmatism	6. 最初と最後の頁 179-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Naoko Saito	4. 巻 52.2
2. 論文標題 Philosophy, translation and the anxieties of inclusion	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Philosophy of Education	6. 最初と最後の頁 197-215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1467-9752.12283	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Naoko Saito	4. 巻 67.5
2. 論文標題 Criticism of criticisms	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Educational Theory	6. 最初と最後の頁 599-604
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/edth.12271	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Reclaiming the Feminine Voice in American Transcendentalism: Bridging Divides in Political Education
3. 学会等名 The annual meeting of the Philosophy of Education Society (Pittsburgh) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Democracy as a Way of Life and An-archic Perfectionism
3. 学会等名 International Conference, "Perfectionism in Literature, Philosophy, and Film: A Tribute to Stanley Cavell (University of New Mexico) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Philosophy, Education and Translation: Towards Bidirectional Academic Exchange
3. 学会等名 教育哲学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Stanley Cavell and the Aesthetics of the Ordinary
3. 学会等名 the international conference, Celebrating Cavell: Must We Mean at Fifty (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤直子
2. 発表標題 『<内なる光>と教育』を共働実学する
3. 学会等名 樹福書院「復幸実学共働学習会」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 The poetics of the ordinary: reverberations of the feminine voice
3. 学会等名 London Branch meeting of Philosophy of Education Society of Great Britain (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Politics of Acknowledgment: Towards An-archic Perfectionism
3. 学会等名 European Pragmatism Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤直子
2. 発表標題 「父の言語のフェミニズム：スタンリー・カベルと哲学の女性性」公募ワークショップ「哲学の<女性・性>再考：クロスジェンダーな哲学対話に向けて」
3. 学会等名 日本哲学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒井祐介
2. 発表標題 「政治学における女性 - 性」公募ワークショップ「哲学の〈女性 - 性〉再考：クロスジェンダーな哲学対話に向けて」
3. 学会等名 日本哲学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 “Educating the feminine voice in philosophy”
3. 学会等名 Philosophy of Education Society, 74th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤直子、荒井祐介ほか
2. 発表標題 人文社会科学の危機におけるアメリカ実践哲学：境界を超える国際教養、政治教養に向けて
3. 学会等名 アメリカ哲学フォーラム
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 Naoko Saito	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Bloomsbury Press	5. 総ページ数 209-236 (280)
3. 書名 “Teachings of Uncommon Schooling: American Transcendentalism and Education in Emerson, Thoreau and Fuller,” in History of Western Philosophy of Education in the Age of Enlightenment, Tal Gilead (Ed)	

1. 著者名 Naoko Saito	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 159-171 (213)
3. 書名 “The feminine voice in philosophy,” in Women in the history of philosophy eds. Sigridur Thorgeirsdottir, et.al.	

1. 著者名 Naoko Saito	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Rowman and Littlefield	5. 総ページ数 165
3. 書名 American Philosophy in Translation	

1. 著者名 齋藤直子、木村晴美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 幻冬舎	5. 総ページ数 238
3. 書名 「自分を変える」ということ	

1. 著者名 Naoko Saito	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 575-593 (824)
3. 書名 “Two-Way Internationalization: Education, Translation, and Transformation in Dewey and Cavell,” in The Oxford Handbook of Dewey, Steven Fesmire (Ed.)	

1. 著者名 Naoko Saito and Naomi Hodgson (eds)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Taylor and Francis	5. 総ページ数 142
3. 書名 Philosophy as Translation and the Understanding of Other Cultures	

1. 著者名 齋藤直子、ポール・スタンディッシュ、今井康雄（編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 248
3. 書名 < 翻訳 > のさなかにある社会正義	

1. 著者名 Naoko Saito	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 135-145 (x1-1472)
3. 書名 “John Dewey and ‘Beautiful Knowledge,’ ” in Springer International Handbook of Philosophy of Education, ed. Paul Smeyers, Vol. 1	

1. 著者名 齋藤直子、ポール・スタンディッシュ、今井康雄	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 1-19 (248)
3. 書名 「承認の政治学を超えて」 『 < 翻訳 > のさなかにある社会正義』 齋藤直子、ポール・スタンディッシュ、今井康雄（編）	

1. 著者名 齋藤直子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 219-239 (248)
3. 書名 「正義の会話」 『 < 翻訳 > のさなかにある社会正義』 齋藤直子、ポール・スタンディッシュ、今井康雄 (編)	

1. 著者名 Naoko Saito and Naomi Hodgson	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Taylor and Francis	5. 総ページ数 1-4 (142)
3. 書名 “Introduction,” in Philosophy as Translation and the Understanding of Other Cultures, Naoko Saito and Naomi Hodgson (eds)	

1. 著者名 Naoko Saito	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Taylor and Francis	5. 総ページ数 18-22 (142)
3. 書名 “Translation on its own terms? Toward education for global culture,” in Philosophy as Translation and the Understanding of Other Cultures, Naoko Saito and Naomi Hodgson (eds)	

1. 著者名 荒井祐介	4. 発行年 2018年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 81-96 (276)
3. 書名 「自由民主主義体制の諸原理と政治制度」 吉野篤 (編) 『政治学 [第2版]』	

(産業財産権)

〔その他〕

Naoko Saito's Website
<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/nsaito/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	荒井 祐介 (Arai Yusuke) (30422562)	日本大学・法学部・准教授 (32665)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	スタンディッシュ ポール (Standish Paul)	ユニバーシティカレッジロンドン教育研究所・教育哲学・教授	
研究協力者	ロジエ サンドラ (Laugier Sandra)	パリ第一大学ソルボンヌ・哲学・教授	
研究協力者	バーンスタイン リチャード (Bernstein Richard)	ニユースクール大学・哲学・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	UCL Institute of Education			
米国	Boston University			
フィンランド	University of Helsinki			
フランス	Paris 1st University Sorbonne			